

＜新学習指導要領を踏まえた英語 4 技能の総合的な育成のために＞

【令和元年度 授業力向上推進プロジェクト委員より】

① 主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のために必要だと考えること

- ・インプットに対して常に **Opinion** を持たせ発信させ続ける訓練。
- ・自分のこと（自身、町、考えなど）について発信させる機会を多く設定する。
- ・正しい発音とイントネーションを身に付け、自信をもって英語で発信させる。
- ・発問作成の力—何を生徒に問うのかを、見極める力が必要。
- ・教材開発の力—教科書の本文をそのまま使うだけではなく、どのタイミングで何を提示するのか、身につけさせたい力を付けるためには教材にどんな工夫を加えるべきかを考える。
- ・ラポールの形成—生徒同士、また生徒と教員の信頼関係が築けていなければ、どんなによい発問をしても内容が深まっていかない。
- ・授業改善に対する心理的なハードルを下げるため、まずは授業改善に向けて多くの教員と意識を共有した上で、お互いに分担し合って教材を蓄積していくこと。
- ・共有できる教材が蓄積されれば、授業で取り組む際の心理的なハードルは低くなり、より多くの教員が実践でき、より多くの生徒が深く学ぶことができるようになるのではないか。
- ・深い学びを実現するための発展課題の設定を生徒のレベル、好奇心に合ったものにする。ほとんどこの課題設定で授業がうまくいくかどうかが決まるくらい大切なことである。
- ・「対話的」という点において、表面的な活発さに偏りすぎないように教師がコントロールすること。生徒が活動的であることが必ずしも学びに繋がるとは限らないので、教師が生徒の学びが生じているかを見極める必要がある。
- ・授業の組み立て（狙いをもったバックワードデザインの授業）
- ・アクティビティだけにとらわれないこと...目標と評価の関係（**Constructive alignment**）の明示
- ・ICTの効率的な活用
- ・教科書に記載されている内容を理解するだけでなく、その背景や関連事項について深く理解すること。
- ・**Ice Break** における簡単な発話を促す活動の充実
- ・『なぜだろう？』、『気になる！』を生徒に感じさせる授業の仕掛けの構築
- ・プレゼンテーションやディベート活動における、考えて表現する活動の充実

② ICT（デジタルコンテンツを含む）をさらに効果的に活用するための工夫（今後やってみたいこと）

- ・教室内に Wi-Fi 環境を整えば、Kahoot! などアプリを活用して、生徒が主体的に参加をしながら文法を確認できるのではないか。
- ・chat 機能を活用したライティングの練習（実際の使用場面に合わせた指導）
- ・音声録音、ビデオ撮影を行い、即座に自分の姿を振り返られるような活動。例えば、プレゼン練習やスピーチ練習でタブレットを活用するなど。
- ・タブレットを使ったスピーキング力の向上と、それをを用いての評価方法の確立
- ・**Microsoft Forms** の授業での使用（さらに授業の臨場感を高める方法についての研究）
- ・生徒側の効果的なタブレットの使用法についての研究
- ・表現活動におけるスモールステップの充実と、それに応じた教材の充実（主にパワーポイントデータの充実）
- ・探究型の学習にするために、生徒個人の端末を活用させ、調べ学習をさせたり、プレゼンを端末のアプリで作成させ発表させたりする。（教員だけでなく、生徒に主体性をもたせて活用させる。）
- ・ICT についてはアウトプット活動との相性がいいので、常時使うというより、必要な時にピンポイントで使うのが効果的である。
- ・動画の活用方法の研究—Authentic Materials（ニュースなどの動画）の活用
- ・プレゼン指導
- ・新たな板書、ノートテイキングについて
- ・発音練習やリーディング活動において、自分の声を録音・再生して確認する。
- ・リテリング活動で、タブレットのカメラを用いて自分の話す様子を撮影し、自己評価する。

【岐阜県英語力強化事業（令和元年度実施）各学校の実施報告書より】

（1）授業における英語4技能をバランスよく育成する工夫（実践例）

【LISTENING】

◎授業の中で継続的に聞く活動を行う

- ・週に1回授業の最初の時間にリスニング活動を行った。また、教科書の本文を聞いてから読むようにしたり、音読活動に時間をかけて取り組んだりした。
- ・新しい単元の英文は必ずリスニングから入るようにしている。キーワードだけ聞き取らせる方法や、短いフレーズを穴埋め式に書き取らせる方法により、リスニングから得られた情報を確認してから、リーディングに移るといったやり方が定着した。
- ・本文の内容を理解した後、音読練習を繰り返し行ったことやディクテーションの練習を重ねた結果、発話の意図を理解しながら会話や話の流れをつかむ力が付いてきた。

◎授業以外でも、家庭学習でも聞く活動を仕組む

- ・授業で毎時間リスニングを実施した以外に、毎朝SHRの前にもリスニングを行った。
- ・ディクテーションを家庭学習の課題として課し、点検した。

【SPEAKING】

◎授業の中で継続的に話す活動(発表・やり取り)を行う

- ・毎時間の授業で、ペアで身近なトピックについて、即興で話す活動を行った。
- ・普段の授業で、日常生活に関するスマールトークや、読んだ本について感想を述べ合ったりするペア活動を取り入れたため、話すことへの抵抗が少なくなった。
- ・授業では、リテリングを中心にアウトプット活動を充実させた。

◎話す力も音読が基本

- ・相手に聞かせる、伝える意識をもたせて行う音読活動が効果的だった。
- ・「音読する」、「その場で意図を理解して反応する」、「考えを組み立てる」、「適切に話す」活動などを積み上げた成果が出た。

◎授業での活動を評価にもつなげる

- ・話す力を評価するためのパフォーマンステストを定期的実施し、生徒自身が自分の課題を把握しながら、次へのステップに向かう意識をもたせることができた。

【READING】

◎教科書の内容を基本として精読・速読を仕組む

- ・教科書の単元を、「精読する単元」と「速読教材として扱う単元」とに分け、速読の訓練にも取り組んだ結果、具体的に情報のつながりを読み取る力の向上につながった。
- ・授業の中に「精読」、「多読」の両方を取り入れ、できるだけ多くの英文を読む機会を設けた結果、生徒の語彙力が向上した。

◎読む活動を増やすために授業展開を工夫する

- ・コミュニケーション英語Ⅱにおいて、週に1回、大学入試対策の長文読解にも取り組み、英語で長文を読むことに慣れさせながら、語彙力の増強を図った。
- ・週末課題、模試の過去問題に加えて、週1時間取り入れた多読の授業も効果があった。
- ・語彙力を付けるために、同じ英単語教材の確認テストを年間2周繰り返した。

◎手立てを示し、繰り返し指導・援助する

- ・行間を読んで書き手の意図を推測し、全体の内容を要約する力を付けるために、各段落の要点をつなぎ合わせ、全体の論旨をつかむ練習を繰り返したことが効果的であった。
- ・語彙の定着のため、様々な分野の文章を読む際に、その分野ごとによく使われる語の傾向があることを示すために単語リストを提示した。

【WRITING】

◎授業の中で、科目・学年を超えて継続的に書く活動を行う

- ・コミュニケーション英語の授業では、各パートや単元の要約を書く活動を繰り返し取り入れた。また、英語表現の授業では、毎週、様々なテーマについて英文で自分の考えやエッセイを書く活動を

行い、全ての科目で継続的に書く活動を行った。

- ・1年次から「①楽しんで量を書く→②様々な話題について一貫した文書を書く→③意見文に対してトピックセンテンス・理由・結論を書く→④理由の後に説得力にある例や詳細、根拠となるデータ等を入れる」というように、段階を追って1パラグラフ150語ほどの文章を書く活動を繰り返した。

◎手立てを示し、丁寧に指導・援助する

- ・習熟度別少人数授業を実施し、まとまりのある英文を書かせる指導を継続した。つなぎ表現を意識的に使う練習や、段落構成の指導、下書き時点での点検と添削等を行い、手厚く指導した。その結果、文と文の意味のつながりを意識して、ある程度長い文章を書く力がついた。まとまった量の英文を書くことへの抵抗も無くなった。
- ・ワークシートを用意して、指示された構成に従って英文を書く活動を行ったことで、自分が主張したいことをわかりやすく伝えることができるようになった。
- ・生徒にここまで書いてほしいというモデルを示すことで、生徒自身が自分の課題を把握し、より良く書けるように取り組ませた。

◎書く目的を明確に／ALT等の協力も得る

- ・「ALTに読んでもらう」ことを目的に書かせることで、相手に伝えようとする気持ちで書くことができるようになった。
- ・ALTの協力を得て、丁寧に英作文指導を行った。
- ・毎回の授業で、60語から100語のまとまった文書を書く活動を行った。ALTによる添削だけでなく、オンラインによるネイティブ添削も実施した。また、初稿の添削のあとにリライトする時間も設けることで、書く力の定着につながった。

◎授業での活動を評価にもつなげる

- ・定期考査では英作文を書く問題を出題し、授業で行ったことを定期考査でも評価した。

◎家庭学習でさらに力を伸ばす

- ・単元の要約やあるトピックについてのエッセイなど書く課題を、宿題や夏休み課題として課し、常に書く意識をもたせた。

【5領域の統合】

◎科目・教科を超えて5領域を結びつけた統合的な言語活動を仕組む

- ・様々なトピックに対してその場で考えて話す活動をしてから、エッセイを書かせた。
- ・英語表現で毎時間、60～100語のまとまった文章を書く活動を行い、書いた内容についてペアやグループで意見交流する活動を継続させた。さまざまな人との意見交流を通して、フィードバックを受ける機会が増え、書くこと・話すことへの動機づけにもなった。
- ・単元ごとに1枚のワークシートで、4技能の言語活動がすべて行えるよう工夫した。
- ・英語表現の授業で、ディベート活動を行っているが、その際、トピックに対する意見文をエッセイとして書かせ、グループ内で意見交流を行っている。
- ・総合的な探究の時間に、大学の留学生に英語でプレゼンテーションを行う活動を行った。

(2) 今後の課題として取り組む必要があること

【LISTENING】

- 授業だけでなく、家庭学習でも英語を聞く量を増やす工夫をする。
- ALT等との授業を通して、積極的に聞こうとする態度を養い、話し手の意図を理解したり、話の流れや展開を理解したりしながら、聞くように指導する。
- 日常生活レベルの語彙や表現の指導も同時に行う。

【SPEAKING】

- 英語で自分の考えを即興で話したり、発表したりする活動を授業の中に定着させる。
- その上で、QA方式のスピーキングだけでなく、社会的な内容について話す活動や、話す前に情報を整理してから、順序立てて論理的に話す活動、ある話題について話を広げながらより詳しい情報を伝える活動等も継続的に行っていく。
- 内容を深めて話すために、語彙力の強化も必要となる。例えば、あるテーマに沿った言葉をマッピ

ングしていくような活動も取り入れていく。

- 語彙力、文法力がスピーキングにおいて十分に活用できるレベルにしていくために、状況を素早く理解し、適切な単語や表現を用いて英語で話す経験を積んでいく。
- あるテーマについての意見を出すことも難しいため、様々なテーマについての読み物を読んだり、リスニングをさせたりすることも大切である。また、生徒同士でも Why?と投げかけられるように促していく。

【READING】

- 短時間で大量の英文を読むために、もっと語彙を増やす必要がある。そのために、1つの語句に関してできるだけ多くの語句を紹介し、リテリングでそれらを使わせる活動を仕組む。
- 読む指導を教科書で行いつつ、日頃から一定の長さの英文を読むこと、様々な話題の英文を読む活動を取り入れていく。家庭学習もうまく利用する。
- 正確に情報を読み取る力、段落間の論理構成や、背景にある因果関係等を意識して読む力、行間を読んで書き手の意図を推測し、全体の内容を要約する力等が大切になる。そのために、各段落の要点を繋ぎ合わせ全体の論旨を的確につかむ活動を行っていく。
- 精読に加え、速読も取り入れていく。

【WRITING】

- 語彙力の増強、文法理解が喫緊の課題である。
- 意味のまとまりを意識して流れのある文章を書く力に加え、段落の構成を意識して、自分の考えを整理して書く力をつける必要がある。そのために、意見の根拠となる事実や感想の列挙だけでなく、関連性を持たせて主張とつなげる活動を行っていく。
- グーグル翻訳等に頼ることがないように、語彙やフレーズの調べ方等を丁寧に指導する。
- 文型や時制、動詞の語法など英語で文章を書く上で最も核となる部分については、繰り返し指導し、書く活動につなげる。

【5領域の統合】

- 読んだり聞いたりしたことについて考え、自分の意見を話し、書くというように4技能を連携させて各技能の向上を図る必要がある。
- 単元の扱い方に軽重をつけるなど指導計画を工夫し、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの活動を取り入れる。

(3) 生徒のアンケートから見られる課題

【LISTENING】

- 「話されるスピードが速かった」→ナチュラルスピードに慣れる指導
- 「考えている時間がなかった」→技能統合（聞いたことについて自分の意見を書く・話す）の工夫
- 「話される英文の中に、意味の分からない単語が多かった」→語彙力の強化

【SPEAKING】

- 「話すのに必要な単語や構文が即座に出てこなかった」→語彙力の強化
- 「与えられたテーマなどについて自分の意見を話すことに慣れていなかった」→スピーキング活動を他技能の活動と統合的にを行い、スピーキングの経験を増やす

【READING】

- 「意味のわからない単語が多かった」→語彙・構文のインプット、アウトプットの必要性
- 「英文の量が多く読み切れなかった」「考えている時間がなかった」→速読・精読など目的に沿った読み方の指導

【WRITING】

- 「書くのに必要な単語や構文が即座に出なかった」→語彙力の強化
- 「考えをまとめて書く時間がなかった」→様々なトピックについて自分の考えをまとめる練習

【英語学習について】

- ・英語学習が大切だと感じている生徒が多く、その目的としては、成績以外に、海外旅行や海外の人とコミュニケーションが取れるようになりたいと答えた生徒が多い。
- 実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けたいと感じていることを踏まえ、授業でしかできないコミュニケーション活動を工夫する。
- ・英語学習が大切だと感じている生徒が多いのに反して、英語の勉強は好きですかという問いに対しては、否定的な回答も多い。
- 嫌いだけれどもやらなければならないと考えている生徒に対して、英語への興味・関心を高め、分かりやすく、できたを実感できる授業を実践していくことが、英語力向上において大切となる。

【家庭学習について】

- ・家庭での英語学習時間については、平日1時間未満、休日2時間未満の生徒が多かった。→授業でしかできないこと、家庭で学習できることをうまく使い分けること、また家庭学習が授業につながるという円環を意識した指導を継続させていく。

【やりたい学習内容】

- ・家庭でも学校でも、文法の学習、語彙、構文の学習やリスニングの練習などをやりたい生徒が多かった。
- 単語や文法などの定着のための指導と言語活動のバランスや英語で行う授業と日本語で行う授業のメリハリを意識した授業を行う。
- 「教えて、考えさせる」、「教えて、使わせる」など、文法・構文などの説明だけで終わらず、スパイラルに考えさせたり、使わせたりして、定着を図る。

(4) まとめ

今回の岐阜県英語力強化事業補助金を活用して、英語民間試験を実施した学校から提出された試験の結果及び報告書から、各学校で、生徒の実態を踏まえて、4技能がバランスよく指導されていることや継続的な授業改善が行われていることが結果に反映されていることがわかる。また結果を踏まえた分析や生徒アンケートから、今後の指導改善や各学校での指導計画を考える上でのポイントを以下にまとめる。

- ◎生徒の英語への興味・関心を高める工夫
- ◎生徒が「何ができるようになったか」を実感できる授業実践
- ◎単語や文法などの定着のための指導と言語活動のバランス
- ◎文法・構文の説明だけでなく、考えさせたり、使わせたりして、定着を図る工夫
- ◎授業でしかできないことと家庭学習でもできることの精選・家庭学習と授業の円環
- ◎複数の技能の統合的な指導の工夫（聞いたり読んだりしたことを話す・書くなど）
- ◎語彙力増強の工夫（受信・発信語彙を分け、使用場面や文脈を意識した語彙の定着）
- ◎この単元でどんな力を付けたいかを明確に、軽重をつけるなどの指導計画の工夫
- ◎定期考査(知識のみを測るものでない)・パフォーマンステスト(話す・書く)の工夫